



令和元年度 特別展

# 聖徳太子と古代王家

―片岡・広瀬地域の開発―

香芝みらい創造プロジェクト  
**香芝市二上山博物館**  
Kashiba City Niijousan Museum

奈良県香芝市藤山一丁目一七番一七号  
香芝市文化施設 ふたかみ文化センター一階  
TEL 0745-777-1700  
FAX 0745-777-1600

令和元年(2019年)  
10/12(土)  
▶12/8(日)

住世間  
像尺寸王身蒙此願力轉病  
懷愁毒共相發願作依三寶  
著於床時王后王子等及與諸  
皇病弗念干食王后仍以  
前太后崩明年正月廿二日上宮法  
法興元母一平歲次辛巳十二月鬼

- 開館時間 午前九時～午後五時（入館は午後四時三〇分まで。）
  - 休館日 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は、翌日が休館日となります。）
  - 観覧料 一般三五〇円、高・大学生二五〇円、小・中学生一五〇円
- （二〇名以上の団体は各料金から五〇円引き）





# 令和元年度特別展

# 聖徳太子と古代王家

～片岡・広瀬地域の開発～

奈良盆地北西部を流れる大和川以南に片岡・広瀬地域は位置しています。河内から大和へ至る西の玄関口にあたり、『古事記』や『日本書紀』の記述から交通の要衝として強く意識されていたことがわかります。この大和と河内を結ぶ主要なルートには、竹内街道や大坂道、竜田越などがありますが、水路では大和川を利用して、隋使裴世清が来日するなど、外交使節を迎える重要な場所でもありました。古代における片岡・広瀬地域は様々な文化が交流する大和の玄関口としての機能を果たしていました。

本特別展では、聖徳太子が生きた時代“7世紀”を中心に焦点をあて、奈良盆地北西部における弥生時代から奈良時代までの文化財を一堂に展示し、古代王家による片岡・広瀬地域の開発について展観します。



尼寺北廃寺塔跡心礎上面出土品（奈良県指定文化財）

## 特別展講演会

10/13

### 葛城北部における敏達王家と上宮王家 ～二王家の動静を探る～

講師 塚口義信氏 堺女子短期大学名誉学長・名誉教授

12/7

### 古代大坂越えの道 ～大和と河内を結ぶ交通の要衝～

講師 近江俊秀氏 文化庁文化財部記念物課主任調査官

時間：午後2時～午後3時30分（開場：午後1時）  
定員：300名（先着順）  
会場：ふたかみ文化センター1F 市民ホール

※ 特別展講演会・ミニシンポジウムの聴講には、資料代200円が必要です。（香芝みらい創造プロジェクト香芝市二上山博物館友の会「ふたかみ倶楽部」会員は無料）

●学芸員による特別展ギャラリートーク  
日程：11月16日（土）・17日（日）  
時間：午前10時～ ・午後2時～

### ミニシンポジウム

### 発掘担当者に聞く、聖徳太子関連遺跡！

11月10日（日）午後1時～午後4時（開場：12時～）

会場 ふたかみ文化センター1F 市民ホール  
定員 300名（先着順）

基調講演①「尼寺廃寺跡と周辺の遺跡」

講師 西垣 遼 香芝市教育委員会生涯学習課学芸員

基調講演②「西安寺・片岡王寺と聖徳太子」

講師 岡島永昌氏 王寺町地域交流課文化資源活用係長

基調講演③「中宮寺の発掘調査成果」

講師 荒木浩司氏 斑鳩町教育委員会生涯学習課文化財係長

### シンポジウムテーマ

「古代寺院からみた奈良盆地北西部の古代王家」

司会・進行 松田真一 香芝市二上山博物館長

パネリスト 荒木浩司氏（斑鳩町）、岡島永昌氏（王寺町）、西垣遼（香芝市）

※詳細は香芝市二上山博物館HPをご覧ください。

最寄り駅からの略図



### ●電車でお越しの方

近鉄下田駅下車→西へ徒歩約8分  
JR香芝駅下車→西へ徒歩約12分

### ●お車でお越しの方

西名阪自動車道 香芝インターチェンジ→南へ約15分  
阪和自動車道 太子インターチェンジ→北東へ約10分  
駐車場有、満車の場合は向かいの市役所南外に駐車ください（無料）

香芝みらい創造プロジェクト

## 香芝市二上山博物館

〒639-0243 奈良県香芝市藤山1丁目17-17 ふたかみ文化センター1F  
TEL 0745-77-1700 FAX 0745-77-1601

Mail: nijyouzan@city.kashiba.lg.jp

開館時間：9:00～17:00（入館は16:30まで）

休館日：毎週月曜日（国民の祝日、振替休日に当たる場合は翌日以降最も近い平日）

### 観覧料

一般…350円 高・大学生…250円 小・中学生…150円 20名以上の団体は各料金から50円引き

※小学生未満は無料です。

表題字：尾崎成美さん（智辯学園奈良カレッジ高等部2年）  
表写真：法隆寺釈迦三尊像光背銘・拓本（帝塚山大学考古学研究所附属博物館）  
右 上：古新羅系軒丸瓦（帝塚山大学考古学研究所附属博物館）  
左 下：尼寺南廃寺単弁八弁蓮華文軒丸瓦（香芝市教育委員会）